



# みんなあつまれ 検証結果（概要版）

平成30年11月22日

みんなあつまれ実行委員会事務局

# 開催概要 1

| イベント名                                       | 日時            | 会場                       | 来場者数※               |
|---|---------------|--------------------------|---------------------|
| in 湘南ベルマーレ<br>ホームゲーム                        | 9月22日<br>(土)  | 平塚市総合公園<br>(平塚市大原)       | 1,100人<br>(12,000)  |
| in アシガラマルシェ                                 | 10月7日<br>(日)  | 酒匂川健楽ふれあい広場<br>(松田町松田惣領) | 4,000人<br>(4,000)   |
| in 日本大通<br>〔ホップ・ミュージックフェスティ<br>バル2018と同時開催〕 | 10月14日<br>(日) | 日本大通 (県庁前)<br>(横浜市中区)    | 20,000人<br>(35,000) |
| in 相生祭 (相模女子<br>大学学園祭)                      | 11月3日<br>(土)  | 相模女子大学<br>(相模原市南区)       | 6,000人<br>(10,000)  |
|   |               | 計                        | 31,100人<br>(61,000) |

※ ( ) は、連携イベントの集客数

- ◆主 催 みんなあつまれ実行委員会
- ◆後 援 神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、平塚市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、神奈川県市長会、神奈川県町村会
- ◆事業費 760万円
- ◆開催目的  
障がいのあるなしに関わらず、パラスポーツやアートやグルメなど、同じ体験を共有し、ともに楽しむことを通じて、「ともに生きる社会」を自分の身近に考えるきっかけとしていただく。

# 開催内容

## スポーツでみんなあつまれ！

- ・ 日本代表選手を含むパラスポーツ選手と一緒に、気軽に参加して楽しめるパラスポーツプログラム



## アートでみんなあつまれ！

- ・ 障がいのあるアート作家などと一緒に体験できるワークショップ、自主製品の制作の実演
- ・ みんなあつまれの象徴となる作品（みんなで作ろう！シンボルアート）を来場者とともに制作

## グルメでみんなあつまれ！

- ・ 障がい福祉サービス事業所の支援者、利用者によるパンや菓子などの飲食物の販売



## ◆来場者アンケート

イベントに来場して「共生社会」や「障がい福祉」への関心が高まったかとの質問項目については、**「関心が大いに高まった」(33.0%)**と**「関心が高まった」(52.4%)**を合わせ、**《高まった》が85.4%**となった。

「ともに生きる社会」を自分の身近に考えるきっかけづくりとする「みんなあつまれ」の目的は概ね達成できた。

## ◆出店者（障がい当事者）アンケート

ワークショップの実施や商品の販売を通して、利用者が来場者と触れ合うことができた。

- ・ 利用者の普段の活動を知ってもらう機会となった
- ・ 出店者である障害福祉サービス事業所の間で交流や情報交換ができた

## ◆憲章の理念の発信

### <成果>

- ・ イベント当日は、憲章の全文を記載したイベントチラシやうちわを配布したほか、場内で憲章を繰り返して放送するなど、多くの来場者へ憲章の理念を発信できた。  
[計11,300枚（イベントチラシ 7,000、うちわ 4,300）]
- ・ 各プログラムの体験者へのアンケートの際は、憲章を策定した経緯や目的を含めて説明し、憲章の理念の浸透に一定の成果があった。

### <課題>

- ・ 多くの来場者へ憲章の理念を発信したところであり、引き続き、継続的な発信をしていく必要がある。

## ◆地域・イベントとの連携

### <成果>

- ・ 地元の方をはじめ、多くの方に来場いただくとともに、地元で活躍する多くの障がい福祉サービス事業所が出店することができた。
- ・ 市町や連携イベントと協力し、お互いに広報を行うなどイベントの周知を実施することができた。

### <課題>

- ・ 地域のイベントと連携する手法は有効と考えられ、集客力のある会場やイベントと連携するとともに、会場内における配置などの調整をする必要がある。

## ◆ その他

| 項目     | 成果  | 課題  |
|--------|---|---|
| 広報     | <ul style="list-style-type: none"><li>・ポスター1,000枚配架、チラシ28,000枚配布</li><li>・地元市町の協力のもと、広報誌への紹介記事を掲載</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・イベントのプログラムの決定に時間を要し、広報に十分な期間を確保できなかった。</li></ul> |
| バリアフリー | <ul style="list-style-type: none"><li>・手話通訳者の配置</li><li>・仮設のバリアフリー対応のトイレの設置など</li></ul>                     | <ul style="list-style-type: none"><li>・バリアフリーを十分に考慮し、連携イベントを選定する必要</li></ul>            |

# 成果と課題 4

| 項目             | 成果   | 課題  |
|----------------|--|---|
| パラ<br>スポー<br>ツ | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 延べ1,281名参加</li><li>・ 障がい者と健常者が<br/>触れ合いながら体験</li></ul>                       | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 体験内容の密度と体<br/>験人数のバランスを<br/>工夫する必要</li></ul>          |
| アート            | <ul style="list-style-type: none"><li>・ ワークショップに延<br/>べ303名参加</li><li>・ みんなが一緒になっ<br/>てシンボルアートを<br/>つくりあげた</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ より多くの方にワー<br/>クショップを体験し<br/>てもらえる工夫が必<br/>要</li></ul> |
| グルメ            | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業所の活動の紹介、<br/>理解の促進</li><li>・ 食べた人の生の感想<br/>を聞くことで利用者<br/>の励みとなった</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ ブースの装飾や呼び<br/>込みの好事例を紹介<br/>するなどの工夫が必<br/>要</li></ul> |

# 31年度の方向性（事務局たたき台）

- イベントの開催に当たっては、憲章の理念に繰り返し触れ、「ともに生きる」ことについて考えてもらうきっかけとなるよう、**引き続き、広がりや継続性のある展開**とする。
- 市町村等と連携した地域のイベントなど、**地域に根差した集客力の高いイベントとの連携をより充実**させていく。